

大会宣言(案)

## 「対話と学びあい」を大きくひろげ 誰もが人間らしく暮らせる平和で公正な社会をつくろう

昨年を上回る物価高騰のもと、私たちは2025国民春闘で職場・地域の組合員や未加入者に声をかけ、「何か困っていないですか」「それ、解決するために一緒に声を上げましょう」とよびかける「対話と学びあい」にとりくんできました。そして、今日の大会では「対話と学びあい」の実践と成果が報告され、さらにすすめていくことを確認しあいました。

2025春闘では、昨年を上回る延べ1569人がストライキに立ち上がり、みんなでそれを支え28年ぶりの水準となる賃上げを勝ちとりました。実質賃金をプラスに転じさせるには至っていませんが、賃上げ2万円以上が22組合、1万5000円以上が22組合、1万円以上が8組合と、大幅賃上げを勝ちとる組合が愛労連加盟組合でも増えています。これは、制度や公的価格を引き上げる「社会的な賃金闘争」で賃上げの土台をつくり、「たたかう労働組合のバージョンアップ」で統一行動への結集を強めながら、ストライキを背景にした交渉で粘り強く回答を引き出してきた成果です。

トヨタ総行動で、トヨタをはじめとする大企業に社会的責任を果たすよう求めてきました。トヨタ自身が下請け労働者の賃金を引き上げるために労務費上昇分の価格転嫁をよびかけ、単価の引き上げに舵を切る状況をつくり出してきました。

最低賃金では、全国一律法制化を求める運動で、与野党136人の衆参国会議員が紹介議員になるまでの前進を築き上げてきました。2015年にとりくんだ最低生計費試算調査で若者が自立して人間らしい生活を送るには時給1500円が必要であることをあきらかにし、今日では1500円の達成が政治的課題になるまでに押し上げてきました。2024年末に発表した最低生計費改訂版では1800円を超えています。今すぐ全国一律1500円を実現し2000円をめざしましょう。

能登半島地震から1年半が経過しました。愛労連も11次にわたる支援活動を続けてきましたが、被災地の復旧はいまだ道半ばで、暮らしと生業の復興には国の抜本的な支援強化が必要です。新自由主義から脱却し、公共の再生を住民とともにすすめましょう。

まもなく被爆・敗戦から80年を迎えます。NHK朝ドラ「あんぱん」に多くの共感が寄せられています。ヒロインの教師は、愛国の鏡と呼ばれ「男の子は立派な兵隊に」と教えてきましたが、間違っていたという深い自責の念から教師をやめました。「教え子を再び戦場に送らない」「ふたたび白衣を戦場の血で汚さない」「二度と赤紙は配らない」。戦後、私たちの先輩は甚大な犠牲を生んだ戦争の苦しみと反省から生まれた新しい憲法を力に、不戦の誓いを打ち立てて労働運動をすすめてきました。歴代自民党政権は、アメリカの求めに応じて大軍拡をすすめ、先制攻撃をも可能にする体制を築きつつあります。軍事と軍事の競い合いでは平和は守れません。核兵器廃絶と平和を求める声を労働組合こそ上げましょう。

「対話と学びあい」を職場と地域にひろげ、5万人愛労連を一刻も早く回復し、職場と地域、生活を良くするみんなの要求を今以上に実現できる愛労連をつくりましょう。

2025年7月21日

愛労連第72回定期大会